美しく生きる

上伊那賛助会報
第 142 号 2021 年7月 21 日発行
長野県長寿社会開発センター
伊那支部上伊那賛助会
TEL 0265 (76) 6863

シニア大学伊那学部入学式

5 月 14 日(金) 第 44 期生の皆様の入学式が、1 年間の休校を経て挙行されました。学生の皆様の安心・安全を第一に考え、コロナの感染対策を十分とり、来賓も　松崎　哲　賛助会会長 1 名だけをお迎えしての式でした。

岩本靖彦　学部長から「本年度、旺盛な意欲と真摯な態度で更に学ぼうとする皆様をお迎えして、相互に学びを深めていただくことに大きな期待を寄せております。今後二年間、ご苦労もあろうかと存じますが、くれぐれも健康に十分ご留意され、所期の目的を達成されることを心より願っています。」と式辞をいただきました。

次に松崎 哲 賛助会会長からご祝辞をいただきました。(次頁掲載)

最後に辰野 恒雄 さんが新入生代表挨拶を行いました。(次頁掲載)

これから 2 年間学生の皆様は、知識や教養を身につける講座をはじめ健康づくりや社会活動の実践など多岐にわたる分野の講座を受講します。

また短歌、俳句、書道、水墨画、絵手紙、写真、詩吟の中から 1 つを選択しての実技講座も受講します。講座を通して学ぶ喜びや人とのつながりが深まることを願っています。

令和３年度 長野県シニア大学伊那学部 入学式祝辞

上伊那賛助会の松崎哲です。
長野県長寿社会開発センターシニア大学伊那学部第４４期生４８名の皆様、ご入学誠におめでとうございます。賛助会員を代表して、お祝いを申し上げます。
また皆様には、人生二毛作として幾多の選択肢の中から、伊那支部のシニア大学を選抜されましたことに、心から敬意と御礼を申し上げます。

さて、皆様におかれましては、長い人生経験で習得された技能や特技や趣味を基に２年間の学習を進められますが、その時に、最も個性が輝き『信頼・信用という報酬』が与えられる、と言われています。
上伊那という大きな屋根の下で、共に生き共に暮らす家族の一人として、シニア大学で出会った友とのご縁を大切にされた絆を築きながら、生涯学習の楽しさを深めてください。

結びとしまして、シニア大学で学んだ経験を生かされ、生きている嬉しさや喜びを実感しながら、気力と体力の維持に努められまして、生まれ育てて頂いた地域の福祉向上やボランティアなどの活動に、私共とご一緒出来ることを心からお待ち申し上げます。
本日はご入学、誠におめでとうございました。

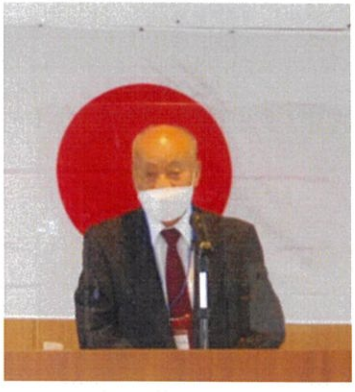
□ □

新入生代表　辰野恒雄　さん　あいさつ

伊那谷の文化とか歴史とか何も知らないまま(仕事で)長野県内を動いたものですから、同年齢の方とお付き合いがありませんでした。これでは暮らしてきた意味がなくなる、皆さんと一緒に過ごせたら、と思って参加しています。

今日このシニア大学を開講していただいた、知事・学部長・さらには事務局・担当の方のご努力がありました。御礼申し上げたい。

生きていく中で２つの事を思っています。



１つは今を生きて老いを思わず。クラスメイトになれば年齢は関係ありません。皆で仲良く活動していきたいと思います。
２つ目はいくら年をとっても教育が絶対必要。教育　今日行くところがある。これが一番幸せなことだと思います。今日行く、明日は大学の日と心待ちができる。

皆さんといっしょに過ごせたらと思って参加しています。

私たちがチームワークよく学習することが皆様に報いることになります。

✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏ ✏

事務局職員の紹介

この４月から長寿社会開発センター伊那支部事務局次長としてお世話になります伊那保健福祉事務所福祉課の山田佳輝と申します。

前任地は、岡谷東高等学校で就学支援金や授業料に関することなど事務室で仕事をしておりました。

昨年度は、コロナ禍の中でシニア大学は休校、賛助会活動も著しく制限されましたが、本年度は新しい生活様式の下、活動が再開されたことにひとまず安心しているところです。しかし、未だ収束には至っておらず、感染警戒レベルを見ながらの「綱渡り」状態ですので、この状況が早く改善されることを願っております。

さて、私は、上伊那地域の勤務は18年ぶりです。新しい道路ができるなど変化を感じる一方で、変わらない景色もあり懐かしさも感じております。

この懐かしい地で皆様に出会えることは何かの縁だと思います。

微力ではございますが､少しでも皆様のお役に立てますよう努めて行く所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

県長寿社会開発センター伊那支部　事務局次長　山田　佳輝（やまだ　よしき）

□ □

今年度シニア大学伊那学部の事務局、社会活動推進員をさせていただきます。藤森　一俊と申します。昨年度まで諏訪の中学校に勤務し、「教育は奇跡を起こすことができる」を教育理念として実践していました。諏訪の実家と妻の実家(伊那市美篶)を行き来しております。

人生の先輩の皆様と共に活動をしていくことに、いささか緊張しています。ただ学ぶことにおいて中学生もシニアの方も変わらないのではと思っています。この数か月シニアの方々と話をする中で、皆様の学ぶ意欲や知的好奇心の高さに驚くばかりです。まだ右も左も分かりませんが、賛助会の皆様の活動をお支えできるように全力で取り組みます。どうぞよろしくお願いいたします。

県長寿社会開発センター伊那支部　社会活動推進員　藤森　一俊（ふじもり　かずとし）

上伊那賛助会定期総会中止に関して

会長　松崎 哲

上伊那賛助会会員様には、日頃から賛助会活動にご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

さて、昨年から社会全体に様々な影響を与えている新型コロナウイルス感染の終息が表れていない昨今ですが上伊那圏域においては、県警戒レベルが「３」(警報)から「４」(特別警報)に引き上がり、一層の感染防止が呼び掛けられています。

つきましては標記の件、県長寿社会開発センターの方針を基にした一年間になるものと思われますが、上伊那賛助会におきましては、定例事業の定期総会を残念ながら今年も中止せざるを得ない事に致しました。

昨年度の事業報告・収支会計報告、本年度の事業計画と収支予算および新役員をご欄頂き、会員様のご理解とご納得を賜りまして、書面議決をご承認願いますよう謹んでお願いを申し上げます。

令和２年度 上伊那賛助会 事業報告

会長 松崎 哲

年月日	曜日		事業内容 他
4 月	9 日	木	第１回役員会（新型コロナ禍における賛助会事業の検討） 《合同庁舎》（長寿社会開発ｾﾝﾀｰ伊那支部主導）参会者：９名
	21 日	火	賛助会役員構成(案),事業(案)の検討会 《合同庁舎》（長寿社会開発ｾﾝﾀｰ伊那支部主導）参会者：３名
6 月	18 日	木	第２回役員会（賛助会役員構成(案)の承認、事業の検討） 《合同庁舎》（長寿社会開発ｾﾝﾀｰ伊那支部主導）参会者：１３名
7 月	14 日	火	南信地区賛助会連絡協議会委員会（ｵﾝﾗｲﾝ会議） 《合同庁舎》（県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ主導）参会者：松崎
	17 日	金	長寿社会開発ｾﾝﾀｰ情報紙「信州りらく2020夏号」 上伊那賛助会報「美しく生きる139号」発送《支部事務局対応》
8 月	21 日	金	第１回県内地区賛助会連絡協議会（ｵﾝﾗｲﾝ会議） 《合同庁舎》（県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ主導）参会者：松崎,竹内
9 月	10 日	木	第３回役員会（賛助会事業の検討） 《合同庁舎》（コロナ禍における社会貢献活動）参会者：７名
11 月	10 日	火	第５回役員会（賛助会事業の検討） 《合同庁舎》参会者：９名
	11 日	水	スマートフォンセミナー（上伊那賛助会企画事業） 《伊那市図書館》（県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ×ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸ主導）参加者：２３名
	12 日	木	第３回伊那市内中学２年生キャリアフェス （新型コロナ禍でオンライン開催に変更 ➡ 出展断念）
	20 日	金	長寿社会開発ｾﾝﾀｰ情報紙「信州りらく2020秋号」 上伊那賛助会報「美しく生きる140号」発送《４名＋支部事務局》
	24 日	火	酒井裕司氏講演会（長寿社会開発ｾﾝﾀｰ伊那支部企画事業） 《駒ヶ根市赤穂公民館》参会者：１３名
12 月	4 日	金	県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ×上伊那賛助会交流会 （県本部来庁 ➡ 新型コロナ禍で来年に延期
			第６回役員会（賛助会事業の検討,活動運営費交付） 《合同庁舎》参会者：９名
R3年 1 月	21 日	木	第２回県内地区賛助会連絡協議会（ｵﾝﾗｲﾝ会議） （県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ主導）➡ 新型コロナ禍で書面開催に変更）
3 月	19 日	金	長寿社会開発ｾﾝﾀｰ情報紙「信州りらく2021春号」 上伊那賛助会報「美しく生きる141号」発送《３名＋支部事務局》
			県長寿社会開発ｾﾝﾀｰ×上伊那賛助会交流会 《伊那市図書館》（長寿社会開発ｾﾝﾀｰ伊那支部主導）参加者：１１名

令和2年度 上伊那賛助会 収支決算書

令和3年3月31日

2020年度 長野県長寿社会開発センター伊那支部
上伊那賛助会収支決算書

収入金額 210,308 円

支出金額 99,184 円

差 引 額 111,124 円

〔収入〕

項目	摘要	予算額	決算額	差異
センター交付	総会費 活動発表会費 グループ長会費 賛助会会報費 会員加入促進費	140,000	144,000	△4, 000
繰越金		66,308	66,308	
合計		206,308	210,308	△4, 000

〔支出〕

項目	予算額	項目	決算額	合計	差異
総会費	35,000	資料印刷 消耗品 茶菓子代 会開場使用料	3,300	3,300	31,700
活動発表会	60,000	資料印刷 会議費 消耗品	4,308 35,000 6,476	45,784	14,216

項目	予算額	費目	決算額	合計	差異
グループ長会費	30,000	通知郵送料 消耗品 会議費 資料印刷	14,424 9,398	23,822	6,178
地区賛助会報費	20,000	会報発行 編集手当 資料印刷	 15,000 9,298	24,298	△4,298
会員加入促進費	35,000	郵送料 消耗費 茶菓子代	0		35,000
その他		ねんりんピックバス代補助			
予備費	30,308	見舞い	1,980	1,980	28,328
合計	210,308			99,184	111,124

〈次年度へ繰越金〉 (繰越金－支出)

収入	支出	繰越金
210,308	99,184	111,124

令和3年 3月 8/ 日

監査の結果以上の通り相違ありません」

監事 宇治重人

監事 北原正元

令和3年度 上伊那賛助会 事業別予算配分(案)

令和3年6月22日

事業名	前年度小計	項目	前年度実績	今年度予算	備考
総会	3,300	賛助会総会	0	0	
		賛助会の集い	0	30,000	高木先生講演会(10/6)
		新入会員歓迎会	0	0	
		資料印刷代	3,300	4,000	
活動発表会	45,784	会議費	35,000	35,000	
		消耗品費	6,476	7,000	
		資料印刷代	4,308	5,000	
役員会	23,822	郵送料	14,424	15,000	
		資料印刷代	9,398	12,000	
賛助会会報	24,298	編集委員代	15,000	15,000	
		資料印刷代	9,298	12,000	
会員加入促進費	0		0	0	
事業活動経費	0	シニア大生親睦マレットゴルフ(秋季)	0	(繰越金運用)	駒ヶ根市ふれあい広場(9/5)
		伊那小学生おいで塾(7/28,29,30)	0	5,000	辰野町ふれあい広場(中止)
		伊那市ふれあい広場(9/5)	0	2,000	県西駒郷まつり(10/16)
		伊那中学生キャリアフェス(11/11)	0	4,000	
予備費	1,980	(元会長お見舞い)	1,980	2,000	
合 計	99,184		99,184	148000	
繰越金	44,816		44,816	△ 6,000	
センター交付金	144,000		144,000	142,000	

令和３年度上伊那賛助会 役員名簿

役 名	氏 名	グループ名	電話番号	住 所
相談役	矢澤 秋子	元副会長	0265-72-0609	伊那市西町
	橋爪 弥六	元会長	0265-73-4507	伊那市美篶
会 長	松崎 哲	ゆめクラブ	0265-83-1451	駒ヶ根市下平
副会長	竹内 春利	かがやき４１	0265-72-6701	伊那市手良
会 計	野澤 伊代子	ゆめクラブ	0265-78-4788	伊那市中央
監 事	北原 正之	ふれあいﾏﾚｯﾄｸﾗﾌﾞ	0265-83-3739	駒ヶ根市中沢
	宇治 重人	ふれあいﾏﾚｯﾄｸﾗﾌﾞ	0266-46-2515	辰野町小野
幹 事	橋爪 弥六	ふるさとを学ぶ会	0265-73-4507	伊那市美篶
	田畑 和子	傾聴ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ伊那	0265-72-6722	伊那市富県
	奥村 伸枝	里山散策の会	0265-78-7517	伊那市日影
	濱田 廣二	ふれあいﾏﾚｯﾄｸﾗﾌﾞ	0265-76-3139	南箕輪村
	臼井 澄子	４２書を楽しむ会	0265-83-7350	駒ヶ根市東伊那
事務局	濱田 廣二	ふれあいﾏﾚｯﾄｸﾗﾌﾞ	0265-76-3139	南箕輪村
編集委員	片桐 謙治	ふるさとを学ぶ会	0265-83-2672	駒ヶ根市北町
	奥村 伸枝	里山散策の会	0265-78-7517	伊那市日影
	村上 美春	里山散策の会	0265-83-7494	駒ヶ根市東伊那

新たな再出発

会長 松崎 哲

昨年度、私どもは新役員として上伊那賛助会の歴史ある伝統を引き継ぎましたが、ご承知の新型コロナウイルス感染防止の一年間であり、皆様のご期待に沿えられるような活動が全く出来ませんでした。ここに謹んでお詫びを申し上げます。

今年度こそ、各位の感染予防やワクチン接種などで試練の場を乗り切りましょう。会員各位には貴重なご意見を提案して頂きながら、「みんなの知恵みんなで改善！」を合言葉に柔軟に努めさせて頂きます。どうぞ宜しくお願い申し上げます

シニア大生と楽しい交流スナップ

ふれあい広場にて

賛助会グループ紹介

傾聴ボランティア

グループ長 田畑 和子

傾聴ボランティア伊那は、24名の会員で活動をしています。傾聴ボランティアとは、相手の気持ちを否定することなくありのままに受け止めて聴き、「心の援助」の実践ボランティアです。活動の場は市内の12施設と個人宅で各会員が月に1回から3回位それぞれの施設へ伺っています。最近はコロナ感染のために施設には入れない現状が続いています。

コロナ感染が収束するのを待っています。そのために定例会では傾聴についてのスキルアップを行っています。

ふるさとを学ぶ会

グループ長　橋瓜 弥六

ふるさとを学ぶ会について紹介します。
上伊那賛助会においても、最も歴史の長い「ふるさとを学ぶ会」は、クラブ設立当時は60名くらい居りましたが、その後高齢化が進み現在の会員は5名に激減しました。
ふるさとや地域の史跡や寺院を巡りながら、歴史や文化を学び、地域の観光伝承に役立つと同時に、高齢者の健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりの貢献することを目的として活動しております。

最近の主な活動は、駒ヶ根市の光前寺、高遠町の弘妙寺・遠照寺、伊那市美篶の蟻塚城址、高遠城下町の散策、箕輪町の無量寺・そばの里など巾広く研修を行い、和尚さまのはなしや関係者の説明など大変勉強になり、昼食も近くの有名店で楽しくとることが出来ました。

今年も木曽方面の研修の旅を計画しておりましたが、新型コロナ禍の影響で延期になっております。

年齢的に例会への参加者が減少する中、シニア大学ＯＢの方々や賛助会の別グループの皆さんにも声を掛け「明るく・楽しく・元気よく」を合言葉に積極的に交流を持ち仲間づくりをしています。

９月 赤そばの里 東京ドームの広さがあります

ゆめくらぶ

グループ長　野澤 伊代子

仲間づくりを大切にしながら地域の皆さんに、何かお手伝いが出来ないかと考え平成24年に結成。共々研修を重ねながらボランティア活動を継続している。青少年の将来を担う育成講座として公民館の夏休み学習の「おいで塾」、中学生社会学習講座キャリアフェス、高齢者施設等の美化清掃作業、等等々。ご一緒にやりませんか。

42書を楽しむ会

グループ長　臼井 澄子

42 期シニア卒業と共に賛助会に入り会を立ち上げました。2 年間のシニア大での活動をこれからも続けていきたいと、8名で「42書を楽しむ会」を設立。今はコロナ禍で活動には色々と不便なこともありましたが、先日の提案で通信で指導して頂いたり対面で行ったりと、先生の初めの言葉は「書は芸術です、楽しんで行いましょう」芸術だなんてステキな言葉。字の下手な私でも2年間続けています。みんなの協力がありまして活動しています。2 年目に入りましたがシニアで縁がつなげていければうれしいです。

見て下ださい 真剣な目つきを

里山散策の会

グループ長　奥村 伸枝

新年度スタート企画

『かんてん ぱぱ ガーデンde うえき 』を愉しもう!! 』

う・・・園内散策、健康パピリオン活用、JR 飯田線最寄駅からウオーキング

え・・・各自好みのレストランで寒天食昼食.

き・・・『ルナ・フローラ展』かんてんぱぱホール鑑賞、園内自然観察、(めだかの学校、野草園、)

☆5 月 28 日～31 日の開催中、各自の日程と時間の使い方は、フリーで。同期の友人参加歓迎!!
感染リスクの回避。各自で感染防止の対策をしっかり行い行動してもらう。

☆マスク着用と久しぶりの再会で素顔が判らず、スマホで連絡取り合う等、新しい交流法で絆が深まる効果も有。

☆シニア大学を体験した事で仲間が増え、卒業後も会う機会があることは、コロナ禍の閉塞感の中でより一層、里山散策の会のうえきの広がりを育てたいと異口同音に語っていた。やって見たい事,行って見たい事,食べて見たい事も,多くの経験者の情報が増えれば楽しさは倍増します。

☆「おためし企画」継続して、安心して活動できる日がやってくる日を楽しみに待っています。
『出来ないことにイライラするより、できるワクワクを探す』里山散策の会にしていきたいです。

ふれあいマレットゴルフ

グループ長　濱田 廣二

昨年までの会員 11 名登録者で活動して来たが、4～6 名の参加者であった。

今年は一人でも多く参加して頂くために活動の開催日を毎月、第二水曜日に変更した所、「お試し」参加者が 4 名あり、賑やかなマレットゴルフを実施。

屋外での活動であるが、「コロナウイルス禍」注意しながら参加者全員マスク着用で予防対策しながら楽しいマレットを行っている。開催日は毎月、第二水曜日午前 9 時集合。初心者の方でも参加大歓迎しています。是非ご参加して下さい。

会員数:9 名　お試し会員 4 名

あなたの入会を 待っていますよ

かがやき41

グループ長　竹内 春利

私達「かがやき 41」はシニア大学 41 期卒業時の班員を中心として出来たグループで現在の班員は 6 人です。他のグループから 1 名が参加しています。発足から 3 年目ですが新型コロナウイルスのため、現在はほとんど集まる事も控え、会うことも出来ていません。今までの活動は、シニア大学時に行った登山、リンゴの収穫のお手伝い、ボランティア活動、景勝地巡り、バーベキュー、忘年会、新年会等様々なものをメンバーの声を聞きながら行って来ました。今後も今まで同様に行いたいと思います。コロナが早く収束して皆の顔が見られる日を待っています。

リンゴの収穫郭作業

《伊那シニアズーム倶楽部　活動紹介》

伊那シニアズーム倶楽部の活動が、
看護大生との異世代交流につながりました

昨年12月に立ち上げた「伊那シニアズーム倶楽部」ですが、ひととおりZoomの使い方を学んだあとは、それぞれがオンライン講座に参加したり家族や友達と交流したりしてきました。

そんな中、長野県看護大学（駒ケ根市）で新型コロナウィルス感染症拡大のため、看護実習先の受け入れがキャンセルとなり、その実習の代わりとなる方法を模索されていることを知りました。

そこで伊那シニアズーム倶楽部に参加しているシニアとの交流を提案しました。 5月から7月にかけて計6回、約1時間30分ほどのZoomによるオンライン座談会をすることになりました。さらにその内の2回は、卒業研究として「高齢者と異世代交流」に取り組む学生さんの研究にも協力することになりました。高齢者と異世代交流についての研究で、研究報告を共有するとともに、報告会には参加したシニアを招待したいとのことでした。

第一回目となる5月18日の座談会は、学生が進行する形で進みました。まずは自己紹介。そして学生からの質問に5人のシニアが応えていきます。座談会に参加したきっかけや、健康について気を付けていることなどの質問が出ました。シニアが応えた内容に対して、さらに学生が質問したり、シニア同士が質問し合ったりと対話はどんどん広がっていきました。

最後に、学生たちと一緒に歌「東京ブギウギ」「お嫁においで」を歌ったり、学生が「パプリカ」を踊ったりしました。また気づいたこと、感想、感謝の言葉等の発表がありました。

終了後、大学からは一人A4一枚程度のレポートとお礼のはがきが届きました。それをシニアの皆さんに送ったところ、シニアの皆さんからも「元気をもらった」「楽しかった」「Zoomで世界が広がってきている」といったメール、感想のレポートなどが届きました。それをさらに学生さんたちにお届けするという形で、一度きりではなく、より深い気持ちの交流が生まれました。

学生たちは、高齢者と接する機会がほとんどないそうです。またシニアにとっても、異なる世代に自分たちの思いを伝えたり、若者の思いを聞いたりすることで、気づきや今後の活動のきっかけにつながることがありそうです。そうした視点から、Zoomに限らず今後も連携を続けたいと思います。人と出会い、話をすることは楽しいこと。たとえ外出が難しくなっても、自宅に居ながら外とつながることができる、新しい世界と出会ってみませんか。ご興味のある方は、伊那支部　藤井までいつでもご連絡ください。

(シニア活動推進コーディネーター　藤井 佳代)

連絡先　eメール：　ina@nicesenior.or.jp
電　　話：　0265-76-6863

10/6

今後のイベント予告

賛助会員とシニア大生との交流・賛助会の集い

1　日　時　１０月 ６日(水)
2　場　所　長野県　伊那文化会館　小ホール(400 名収容)
3　日　程　午前　賛助会・シニア大学の交流 10:30～12:30
　　午後　賛助会の集い 講演会　　13:30～15:30
　講師　諏訪中央病院　副院長　髙木 宏明　先生
　演題　「コロナ時代のわたしたち・・～これからの
　　仲間づくりを考える～」

□ 講演内容

シニア世代がコロナ禍での感染対策を図りながら、生きがいづくりや健康づくりの土台となる、仲間づくりを進めていく、その具体的な内容についてお話をしていただきます。

【プロフィール】

名古屋市出身。１９８７年名古屋大学卒業。岐阜県高山市の厚生連久美愛病院を経て、１９９５年諏訪中央病院着任。

2017 年から副院長兼医療安全管理部長兼在宅・地域ケアセンター長。専門は総合診療と在宅診療。

編 集 の 窓　『コロナ禍における繋がり方』

コロナ禍において皆さんは、どのようなつながりを模索されたでしょう。前回「編集の窓」で私は、「このコロナ禍でも、人と繋がって、人に頼って頼られて居心地良く過ごしたい」と綴ったので、感染対策を万全にしてサロンも続け、なるべく人と会えることを試みました。しかし、５月、感染警戒レベルが上伊那のみ５になった時は、さすがにサロンは閉会、家に閉じ籠るしかありませんでした。そこで、ふと考えたのが「おたより」です。毎月二回、みんなと会っておしゃべりして体操やゲームをして楽しむ「高齢者対象のクラブ」のみなさんに、「ほのぼの通信」なる物を出したらどうか。毎月紹介している「一日一句」の解説を手書きで出してみることにしたのです。しゃべるのと違って、短く要約するのに手間取りましたが、意外に一発でＡ４用紙にまとまり、絵手紙を付けて完成。スタッフのお力をお借りして３０人余りに配りました。反響は思った以上。「解説がまとまっていてよくわかった」「手紙っていいね」「もらった利用者さんが喜んでいたよ」などなどの感想をたまわり、ホッとした次第。「会えない時も繋がっている気がした、心配してくれてありがとう」というある方の電話には涙しました。

ほのぼの通信
2021.5.27(木)
生活支援コーディネーター
村上美春
NO.1

そんな訳で、六月はなんとか無理にでもサロンを再開しましたが、「ほのぼの通信」で気を良くした私は、第二弾を制作中。現在、東伊那絵手紙教室の皆さんとは、「文化祭までには一人五〇通を相手に出そう」を目標にやり取りをしています。お互い、自分のありのまま、素で『ヘタでいい』と出し合って盛り上がり中。デジタルでの繋がりもどんどん促進していってほしい半面、私はデジタルには弱い方なのでアナログに固執して、手書きの温かみを伝えつつ、繋がっていけたらなと思っています。

（村上　美春）